

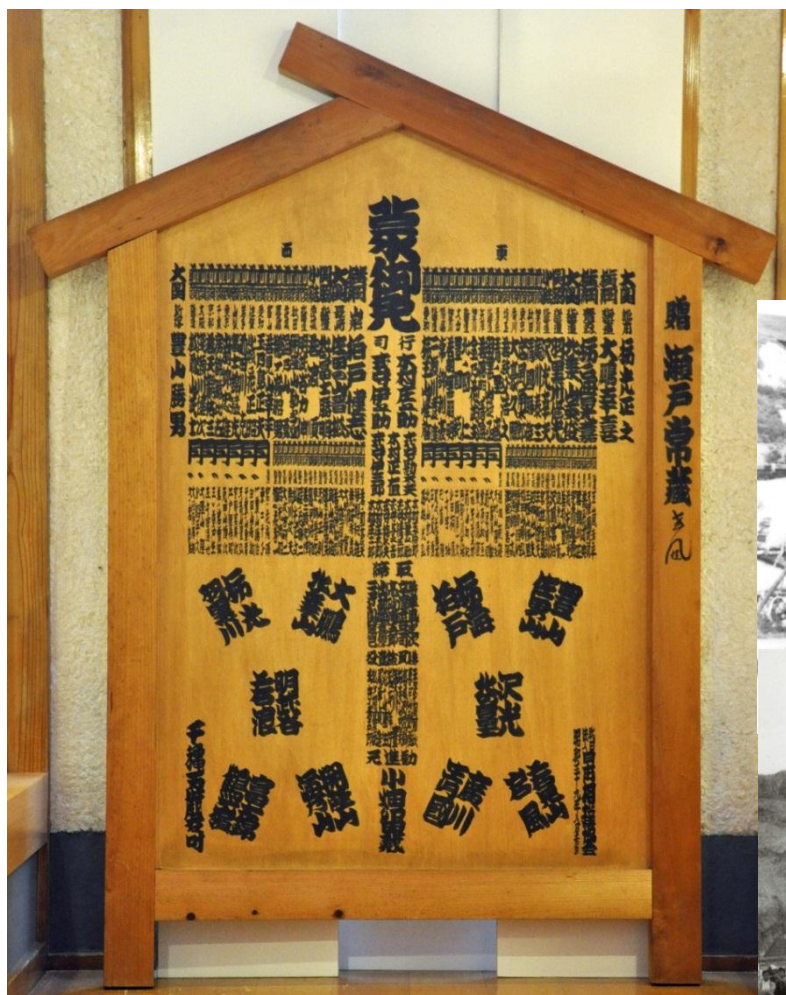


歴史・概要 ~その3~

HISTORY

稚内準場所 いたぼんづけ 板番付【1964（昭和39）年8月】

/ 旧瀬戸邸（1階） 展示資料



旧瀬戸邸には、『板番付』と呼ばれる大相撲の番付表が残されています。この板番付の右側には、「贈 瀬戸常蔵さん江」と書かれ、稚内準場所の関係者であった瀬戸常蔵に贈られたものです。板番付とは、本来来場していただいたお客さんにその場所の出場力士の顔ぶれを知らせるために設けられたもので、力士、親方、行司、呼び出しなどたくさんの名前がびっしりと書かれています。板番付の上の部分は、ちょうど「入」という形になっており、興行の大入りを願う、江戸時代から続く伝統の様式です。

この板番付に描かれているとおり、1964（昭和39）年8月5日、最北の地、稚内に大相撲が巡業します。昭和39年というと、大鵬・柏戸という現在も語り継がれる昭和の大横綱が活躍した時代です。この時代の子どもたちの好きな物といえば「巨人・大鵬・卵焼き」。野球選手とならび、お相撲さんたちが今以上に国民的ヒーローでした。当時、力士たちは地元の有力者の自宅を訪れるのが通例だったようで、東の横綱、大鵬はここ旧瀬戸邸を訪れています。